



# 生物多様性研究室 (片田研究室)

## Laboratory of Biodiversity

野外調査を通して自然環境の理解を深める。また、生態学の知識と研究成果を環境教育に生かす。

### ①生物多様性情報の収集と活用

ヒトの社会生活は地球という自然環境の「生物多様性」によって支えられています。生物多様性は過去数十億年の生命の進化の結果として生まれ、この地球の各地で見ることができます。これは都市部(例えばこの大学がある板橋キャンパス)においても例外ではありません。それぞれの持ち場で、現時点でこの多様性を記述し、標本を集め、記録を残しておく取り組みが日本はもちろんのこと世界中で進んでいます。当研究室では、昆虫をはじめとした動物、植物(木本、草本、蘚苔類)を対象とした生物多様性情報に関する調査を継続的に行っています。

また、これらの情報を「環境」を学ぶ生きた教材として活用することをめざしています。



### ②ラン類の生態調査と保護

家政大板橋キャンパスには5種の野生ランの自生が確認されています。中には環境省や東京都のレッドリスト(保護上重要な野生生物種)に指定されているものもあり、当研究室が継続的に生態調査を行っています。またこのデータは大学と協力して、保護および環境啓蒙活動を行う上で活用されています。



環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類(VU)のマヤラン

### ③環境教育の担い手を育てる

北区と連携し石神井川辺の公園「音無さくら緑地」の維持管理事業に取り組んでいます。

学生が中心となって動植物の生態調査を進め、市民が利用しやすく、また自然環境を身近に感じることができる公園として活用して行く予定です。



## 研究室学生の言葉

(卒業生)

研究テーマ:

東京家政大学キャンパスにおける自然植生

研究室では生物多様性情報の収集と活用を研究活動の柱としています。私は板橋キャンパスの樹木(高さ130cm幹周10cm以上)の毎木調査を行いました。木の名前をたくさん覚えて、最後にはマークした木は113種1185本にもなっていました。このような豊かな自然環境が今後も続くことを、そしてこのデータが10年後20年後有効利用されることを願います。

(卒業生)

研究テーマ:

板橋キャンパス内における野生ランの生態に関する研究

このキャンパスには江戸時代、加賀藩下屋敷として使われて以来、現在まで宅地化されずに残されてきた森があります。この森には他では見ることが難しくなってきた野生のランが残っています。そして私が扱ったマヤランは、樹木と菌類との微妙な共生関係の産物として毎年200以上の花を咲かせています。野生ランを調査を通して、生態系の具体的な仕組みや、その近くで暮らす人間のあり方を、この研究室では学んだと思っています。

## 卒研テーマ(抜粋)

○生物多様性に関するもの

- ・東京家政大学内における開花フェノロジー調査
- ・大学内における環境指標生物蘚苔類の種構成
- ・昆虫の生物多様性情報の保全
- ・土壌シードバンクによる植生復元調査

○環境教育に関するもの

- ・東京家政大学みどりヶ丘幼稚園における環境教育
- ・環境指標生物デジタルマップの作成と環境教育への応用

○その他

- ・板橋キャンパス内における野生ランの生態に関する研究
- ・オオチョウバエの生活史
- ・東京家政大学内における吸血性蚊類の分布と季節消長
- ・アカボシゴマダラの幼虫時代における生育密度が成長に及ぼす影響
- ・キャンパス内のクマムシ類の分布と生態に関する研究

## トピックス

環境教育学科が主催する西表島野外実習(4泊5日)は、現地の琉球大学西表研究施設のサポートも受け2015年で3年目となる。山、干潟、マングローブの森、サンゴ礁の海を訪れ、日本の生物の多様性を存分に体感できる実習として1~2年生におすすめの実習。生物多様性研究室はこの実習を全面的にサポートしています。



## 片田真一講師の紹介



東京家政大学 家政学部 環境教育学科 生物多様性研究室 講師

学歴 ・1993年 琉球大学 修士(農学)課程修了  
・1998年 東京都立大学 博士(理学)課程修了、学位取得

職歴 ・2000-2001年 琉球大学熱帯生物圏研究センター講師(COE研究員)  
・2005-2008年 慶應義塾大学 特色GP特別研究教員  
・2008-2012年 慶應義塾大学 経済学部 助教  
・2012- 東京家政大学 家政学部 環境教育学科 着任

学会 ・日本動物行動学会  
・日本応用動物昆虫学会

講義 ・生物学II・生態学・生物多様性学・環境生物実験・応用生態学実験

学生に伝えたいこと

大学の研究室活動では、自身の研究の獨創性・先進性をとことん追求してください。そのために、先行研究を良く調査し、科学の方法とルールを学び実践することが大事です。そして、「新しい真実」を見つけて出す楽しさ=研究の楽しさを実感してほしいと思っています。

モットー

「まずは、捕まえてみよう!」

趣味

山歩き、海歩き。魚釣り。